

秋まき作型の加工・業務用キャベツに適する窒素施用量

収量7t/10aを確保するための窒素施用量は、青果用キャベツの施用基準量の1.3倍量にあたる20kg/10aが適当

背景・目的

- 加工・業務用キャベツの目標収量は7t/10a, 1球重1.8~2.0kgであり、青果用キャベツの目標収量5t/10aより多い
- 連作による養分の収奪や偏りが懸念され、加工・業務用キャベツの目標収量に適合した窒素施用基準量の策定が必要

成果の内容

- 収量7t/10aを得るための窒素施用量は、青果用基準の1.3倍量が適当
⇒20kg/10a
- 収量7t/10a時の総窒素吸収量は30kg/10a程度
⇒結球重として持ち出す窒素量 15kg/10a
⇒圃場に還元する窒素量 15kg/10a

※降雨等による流亡分を考慮しても圃場の窒素量は不足しない

期待される効果

- 加工・業務用キャベツの安定生産
- 適正な窒素施用による持続生産
- 過剰施肥回避による肥料コスト低減

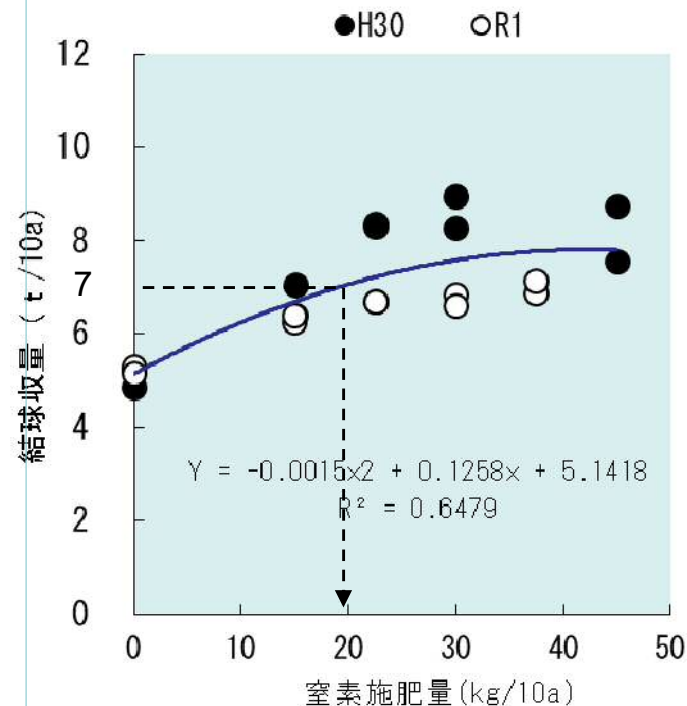


図1 結球収量と窒素施肥量(H30,R1)

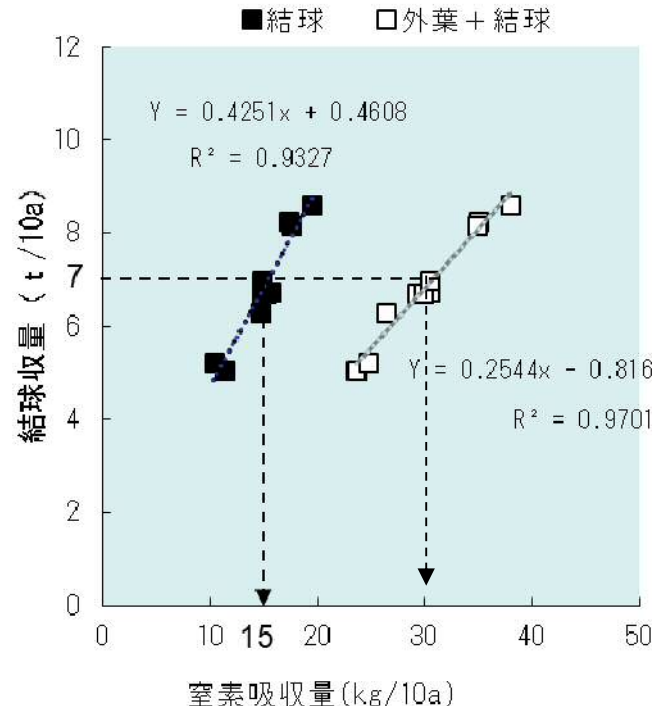


図2 結球収量と窒素吸収量(H30,R1)



- 普及対象・範囲
加工・業務用キャベツ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
土壌環境研究室